

石碑のある風景～三色吉・北長谷・南長谷～

2013年9月28日(土)～12月1日(日)

南長谷地区の石碑概観

南長谷地区では享保17年(1732)から昭和10年(1935)にかけて石碑が作られており、8地点で15基の石碑が存在しています。この地区の特徴として挙げられることは、寺社よりも街道沿いなどに点在して存在していることです。造立年代からみる傾向としては、江戸時代中頃に最も多く作られています。



南長谷地区石碑分布図

根方泉周辺の石碑群

南長谷字根方泉には、かつて瑞応庵すいおうあんという草庵そうあんがありました。この付近の山裾やますそにある鳥居とりいのところでは、青面金剛しょうめんこんごうや天邪鬼あまのじゃく、三猿さんえんを浮彫りしている見事な庚申供養塔を見ることができます。この石塔は享保17年(1732)の年号があり、市内に現存する庚申塔では最も古いものの一つとなっています。また丘陵裾部を通過していた東街道あづまかいと考えられる道端みちばたには、地蔵ぢそうまたは僧形せんごくの像を線刻し、名取市の道祖神社どうそじんじやの方向を示す道標も存在しています。



根方泉の庚申塔



東街道の傍らにある道標

千貫神社の石碑群

南長谷字諏訪に所在する千貫神社では、境内入口付近と参道を登った先の二か所(せんがん)で計6基の石碑を見ることができます。特徴的な石碑としては「辯才天供養塔べんさいてんくよう」があります。弁才天に関する石碑は市内では僅かに3基のみであり、そのうちの2基が北長谷・南長谷に存在していることから、非常に限定的な信仰であった可能性が考えられます。また市内では唯一となる福島県相馬郡飯舘村に所在する山津見神社やまつみを示す「山津見神」碑も見ることができます。なお、ここでの石碑には原地区はらから運ばれた石碑が多く見られることも、特徴の一つとなっています。



千貫神社の山津見神碑



南長谷・千貫山山中に存在する五智如来碑(伝・緑丸供養碑)

はじめに

みなさんはこれまで神社やお寺の境内で、または道の傍らなどで、ひっそりと佇む石碑を見たことはないでしょうか。岩沼市の各地に存在するこれらの石碑の多くは、江戸時代になってから地域に住んでいた人々によって造られたものですが、なぜ当時の人々がこれほど多くの石碑を造り続けていたのか疑問に思う方もいるかもしれません。

石碑の文字を見てみると、実に多種多様な文字が刻まれていることが分かります。江戸時代以降に造られた石碑では、大きく分けて現世利益げんせいりやくのためのもの、特定の信仰に基づくもの、そして記念碑的な性格を持つものに分けられます。

これらはいずれも当時、この地域で暮らしていた人々の心性や風習を知るためには欠かせない、大きな“地域の財産”であります。岩沼市では現在、市内各所に存在している信仰にかかわる石碑の実態把握に努めていますが、今回はそのうちの三色吉地区さんしき、北長谷地区きたはせ、南長谷地区みなみはせに所在する石碑について紹介します。

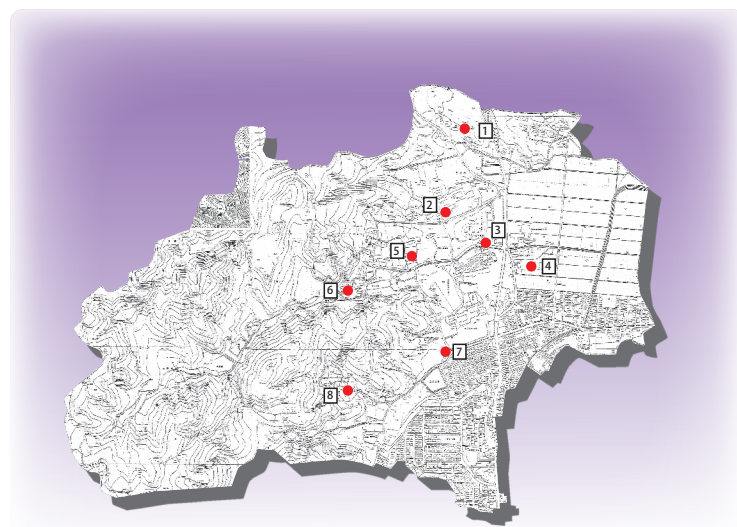


三色吉・北長谷・南長谷地区の位置

お問い合わせ 岩沼市ふるさと展示室
住所 〒989-2448 宮城県岩沼市二木二丁目8番1号
電話 0223-25-2302

三色吉地区の石碑概観

三色吉地区では宝暦4年（1754）から大正14年（1925）にかけて石碑が造られており、7地点で25基の石碑が存在しています。この地区の特徴として挙げられることは、石碑の大多数が寺社境内やお堂などに存在していることです。また東安寺では馬頭観世音が集中していますが、全体としては10種類の石碑が存在しています。造立年代からみる傾向としては、江戸時代中頃と明治・大正時代の2時期に集中しています。



三色吉地区石碑分布図

大窪地蔵尊堂の石碑群

三色吉字大窪に所在する大窪地蔵尊境内の東側では、3基の石碑と1基の石仏が並べられています。ここの石碑群の特徴としては、小川の蓮華寺前に存在している「六十六部廻国供養塔」と近似しているのがみられることがあります。岩沼市内では六十六部関係の石碑は僅かに4点のみであり、そのうちの2基が小川地区と三色吉地区に存在していることとなります。また「猫神」碑も市内では珍しい石碑ですが、この石碑では下部に猫のレリーフが浮彫されていることが特筆されます。なお、現在までのところ市内での猫神碑の発見は4例ありますが、これらは北部地区と西部地区のみに存在しており、偏った傾向となっています。



大窪地蔵尊堂の猫神碑

東安寺の石碑群

三色吉字竹倉部に所在する東安寺には、山門の両脇で8基の石碑と1基の地蔵菩薩像を見ることができます。ここでは5基の「馬頭観世音」碑が集中しています。中でも明和6年（1769）の年号が刻まれている馬頭観世音碑は、市内に数多く存在する同タイプの石碑の中でも最も古いものの一つとなっています。また、三色吉地区で最も古い宝暦4年（1754）の年号を持つ「南無阿弥陀仏」と刻まれた名号碑も見ることができます。



東安寺



東安寺の名号碑

北長谷地区の石碑概観

北長谷地区では、今回の3つの対象地域では最古となる享保6年（1721）から、最も遅い昭和23年（1948）にかけて石碑が造られており、3地点で15基の石碑が存在しています。

この地区の特徴として挙げられることは、まとまった地点に集中して存在していることです。そのバリエーションも豊富で11種類の石碑が確認されています。造立年代からみる傾向としては、江戸時代後期に最も多く造られています。



北長谷地区石碑分布図

長谷寺の石碑群

北長谷字畑向山に所在する長谷寺では、参道入口脇などで7基の石碑を見ることができます。ここに存在する石碑は、すべて異なる種類であることが大きな特徴となっており、地域内に多様な信仰が根差していたことをうかがわせるものとなっています。なお、ここに所在している「大黒天」碑は、市内で唯一の確認事例です。このほか本堂の西側では一字一石経を納めた石祠などを見ることができます。



長谷寺の一字一石塔



長谷寺の大黒天碑

北長谷地区道端の石碑群

北長谷字畑中道に所在する北長谷公会堂東側の道沿いには、7基の石碑がまとまって存在しています。ここの石碑群で最も特徴的なものとして挙げられるのは、文化9年（1812）の年号がある「念仏供養」塔です。この石塔は六角形に整形されており、それぞれの面の上部には僧形像が浮彫りされています。また、そのうちの一面は道標としても使用されています。



北長谷公会堂付近の道端に立つ石碑群



念仏供養碑